

インナーウェア分野

8/17 「BODY WILD」中国1号店が北京にオープン!

「BODY WILD」のフラッグショップが、北京市郊外の金源モールにオープンしました。開店式典には、様々なイベントが盛大に行われました。今後も新たな出店を進めてまいります。



店頭でのテープカットの様子

一反日運動の影響について—日本製品の不買運動の影響はございますが、店舗への直接的な被害はございませんでした。(10/4時点)

スポーツクラブ分野

8/1 グンゼスポーツクラブが京都店(4/1 開店)に続き、神戸ハーバーランド店オープン!

都市型の小型スポーツクラブ「Gスポーツ ステューディオ 神戸ハーバー店」がオープンしました。総合スポーツクラブとは違い、若年層をターゲットに、機能も必要最小限に絞り、コンパクトながら質の良いサービスを格安で提供しています。



施設内の芝生ゾーンを活用した屋外ヨガ(神戸店)



風光明媚な神戸を肌で感じて走る人気の「日曜ラン」(神戸店)

商業デベロッパー分野

10/20 大型商業施設「つかしん(にしまち)」が改装オープン!

「グンゼタウンセンターつかしん」(兵庫県尼崎市)の一部を改装し、この秋にオープンしました。施設内のグンゼスポーツクラブとの関連店舗を充実し、ファミリーでのご利用のため、休憩できるエリアを増やしました。オープン初日は、多くのお客さまでにぎわいました。



大勢の買い物客でにぎわう「にしまち」 家族連れに人気のスケートリンク



メディカル分野

拡大する中国の医療市場を狙い、中国深圳大学との共同研究室を設立しました。また2013年には中国でメディカルの新工場が稼働する予定です。



共同研究室の開所式の様子

繊維資材分野

拡大するバングラデシュ縫製市場への対応と、アジア地域への供給のため、2013年7月にバングラデシュの新合弁会社の工場が稼働する予定です。



アパレル用ミンシ糸

株主のみなさまへ

平成24年4月1日から平成24年9月30日まで

グンゼ株式会社

全員の心と力を結集し、新たなる成長へ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。当社グループは2012年9月をもって第117期第2四半期を終了いたしましたので、連結決算概況についてご報告するとともに、当社のセグメント別事業内容などについてもご報告申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。さて、当第2四半期において当社は、欧米・中国の景気停滞、長引く円高、消費低迷などの影響により苦戦を強いられました。機能ソリューション分野での受注減、大手流通のPB商品拡大などによるアパレル関連商品の苦戦などから売上は前年同期比で減少となりました。このような危機的状況において当社構成員全員は、心と力を結集して構造改革を実現し、反転攻勢をかけていく所存でございます。今後とも株主の皆さまには、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成24年12月

代表取締役社長 兎玉和

会社の概況

(平成24年9月30日現在)

社名	グンゼ株式会社
設立年月日	明治29年8月10日
資本金	26,071百万円
従業員	2,065名(単体) 8,249名(連結)
本店	京都府綾部市青野町膳所1番地
大阪本社	大阪市北区梅田一丁目8番17号(大阪第一生命ビル) TEL(06)6348-1313
東京支社	東京都中央区日本橋二丁目10番4号 TEL(03)3276-8710

※取締役、監査役、執行役員などの変更はございません。
※主な連結子会社の異動はございません。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会 3月31日(毎年6月下旬開催) 期末配当金 3月31日
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場取引所	東京(第1部)、大阪(第1部)
証券コード	3002
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL: 0120-094-777(通話料無料)

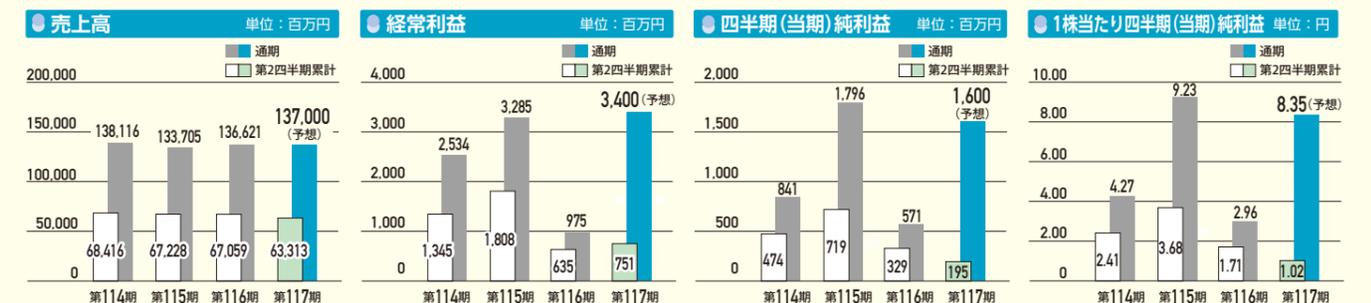
GUNZE グンゼ株式会社 大阪市北区梅田一丁目8番17号(大阪第一生命ビル)

ホームページはこちらから



決算ハイライト

厳しい経営環境のなか、2年目を迎える中期経営計画『Innovation 4S(平成23年度～平成25年度)』の重点戦略である「成長確保」と「体質強化」を両輪として、激変する市場環境への対応力強化に取り組みました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は63,313百万円(前年同期比5.6%減)、営業利益は875百万円(前年同期比43.7%増)、経常利益は751百万円(前年同期比18.3%増)、四半期純利益は195百万円(前年同期比40.7%減)となりました。なお、機能ソリューション事業の受注回復が遅れているものの、利益面ではアパレル事業の原価改善などにより概ね想定範囲内で推移していることから、通期業績予想については、売上高のみ45億円減額しております。



● 連結業績のご報告

連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円、単位未満切捨て)

科目	平成24年9月30日現在	平成23年9月30日現在
資産の部		
流動資産	76,988	75,770
固定資産	90,985	93,594
有形固定資産	67,847	68,608
無形固定資産	1,784	1,984
投資その他資産	21,353	23,001
資産合計	167,974	169,365
負債の部		
流動負債	47,100	42,483
固定負債	14,018	15,655
負債合計	61,118	58,139
純資産の部		
株主資本	110,554	111,871
その他の包括利益累計額	△4,906	△1,979
新株予約権	305	228
少数株主持分	901	1,106
純資産合計	106,855	111,226
負債および純資産合計	167,974	169,365

流動資産 前年同期比12億円増加

たな卸資産36億円の増加、現金及び預金13億円の減少、繰延税金資産9億円の減少などにより、全体では12億円の増加となりました。

固定資産 前年同期比26億円減少

投資有価証券45億円の減少、機械装置及び運搬具11億円の減少、投資その他28億円(長期前払費用等)の増加などにより、全体では26億円の減少となりました。

流動負債 前年同期比46億円増加

コマーシャル・ペーパーを含む短期借入金58億円の増加、支払手形及び買掛金11億円の減少などにより、全体では46億円の増加となりました。

固定負債 前年同期比16億円減少

退職給付引当金13億円の減少などにより、全体では16億円の減少となりました。

純資産 前年同期比43億円減少

その他有価証券評価差額金31億円の減少、株主配当14億円などにより、全体では43億円の減少となりました。

売上高 前年同期比5.6%減少

機能ソリューション事業で29億円の減収、アパレル事業で13億円の減収、ライフクリエイト事業で4億円の増収となり、全体では37億円の減収となりました。

営業利益 前年同期比43.7%増加

機能ソリューション事業で5億円の減益、アパレル事業で7億円の増益、全体では2億円の増益となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー 前年同期比47億円増加

税金等調整前四半期純利益6億円、減価償却費36億円、たな卸資産の増加20億円などにより、第2四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは20億円の収入となり、前年同期比47億円の増加となりました。

連結損益計算書(要約)

(単位：百万円、単位未満切捨て)

科目	平成24年4月1日から平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
売上高	63,313	67,059
売上原価	46,814	50,017
売上総利益	16,499	17,041
販売費及び一般管理費	15,623	16,431
営業利益	875	609
経常利益	751	635
税金等調整前四半期純利益	630	765
四半期純利益	195	329

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円、単位未満切捨て)

科目	平成24年4月1日から平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,008	△2,789
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,893	△3,941
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,966	6,346
現金及び現金同等物に係る換算差額	37	△3
現金及び現金同等物の減少額	△880	△387
現金及び現金同等物の期首残高	6,078	6,905
連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	89	109
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,287	6,626

● 株式の状況 (平成24年9月30日現在)

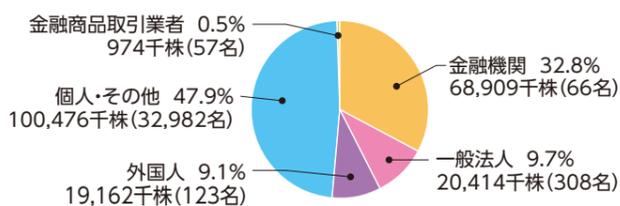
発行済株式総数 209,935,165株

◎自己株式(平成24年4月1日から平成24年9月30日)

取得 5千株(1百万円)
処分 5千株(2百万円)
期末18,369千株(7,654百万円)

◎単元株式数：1,000株

株主数 33,536名



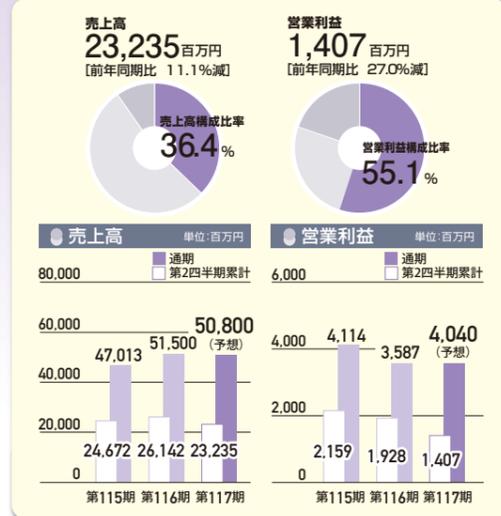
(注)円グラフは発行済株式総数に対する保有割合

大株主一覧 (上位10社)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	29,314	15.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,131	3.20
株式会社京都銀行	5,875	3.06
第一生命保険株式会社	5,529	2.88
日本興亜損害保険株式会社	4,380	2.28
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	4,367	2.27
株式会社GSIクレオス	4,355	2.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,815	1.99
資産管理サービス信託銀行株式会社	3,317	1.73
グンゼグループ従業員持株会	2,593	1.35

(注)当社は、自己株式18,369千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

● セグメント概況 機能ソリューション事業



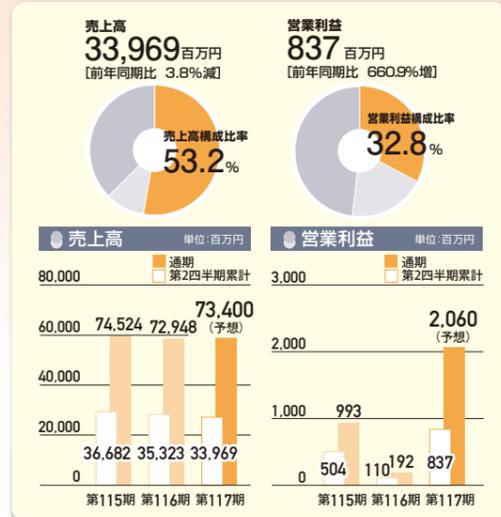
(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

プラスチックフィルム分野は、残暑の長期化で主力の飲料向けは堅調に推移したものの、食品包装分野や工業用途は総じて低調となりました。エンジニアリングプラスチック分野では、OA機器用部材は欧州の景気低迷や印刷数抑制などにより需要が停滞しましたが、半導体関連用途は順調に推移しました。電子部品分野は、主力である中・大型透過型静電容量方式タッチパネルの受注が低迷し苦戦しましたが、Windows8 関連のパソコン向けタッチパネルの受注獲得に注力しました。メディカル分野は、日本・韓国及び欧州での販売が伸長し、堅調に推移しました。以上の結果、機能ソリューション事業の売上高は23,235百万円(前年同期比11.1%減)、営業利益は1,407百万円(前年同期比27.0%減)となりました。



食品の容器に使われるシュリンクフィルム
複写機やプリンタ等に使用される機能部品
電子部品分野の製品検査の様子
体内で溶ける吸収性骨接合材

● セグメント概況 アパレル事業



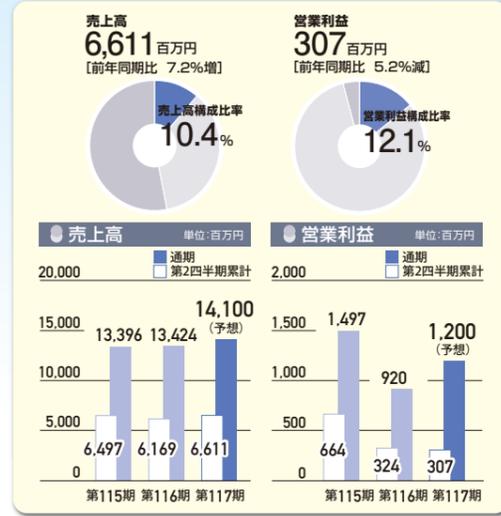
(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

インナーウェア分野では、天候不順や消費マインドの悪化も重なり、ベーシック商品やシーズン商品が苦戦しましたが、ボディワイルドなどのファッション・カジュアル商品は堅調に推移しました。また、原価改善や固定費削減などにより収益性は改善しました。レッグウェア分野は、ソックスが苦戦したものの、プレーンストッキングが引き続き好調に推移しました。以上の結果、アパレル事業の売上高は33,969百万円(前年同期比3.8%減)、営業利益は837百万円(前年同期比660.9%増)となりました。



やさしく、あたたかい肌着「ホットマジック」
スタイリッシュで美しい黒のストッキング「ミリカ」
上質な温もりの部屋着「ナチュラルハープ」
縫製糸は、自動車のエアバッグなどにも使用

● セグメント概況 ライフクリエイト事業



(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

不動産関連分野は、本年10月リニューアルオープンの商業施設「グンゼ タウンセンター つかしん (にしまち)」改装工事の影響により苦戦しましたが、第2四半期はひがしまちへの新規テナント導入効果もあり好調に推移しました。スポーツクラブ分野は、既存店の順調な集客に加えて、新規に京都店・神戸店の2店舗が開店し、堅調に推移しました。以上の結果、ライフクリエイト事業の売上高は6,611百万円(前年同期比7.2%増)、営業利益は307百万円(前年同期比5.2%減)となりました。



新規オープンした「グンゼスポーツ」神戸店
尼崎市との姉妹都市を再現し、ドイツの香りを感じる「つかしん」
16種類のお湯が楽しめるつかしん「湯の華廊」
中国でも事業拡大する省エネ支援事業